へ遠13
1868
21

七ツ組入子枕

上

喜鶴堂壽梓

初編

仙果述
國芳画

庚戌新刊

下

へ遠13
門 1868
巻 1

七組入子枕

初編

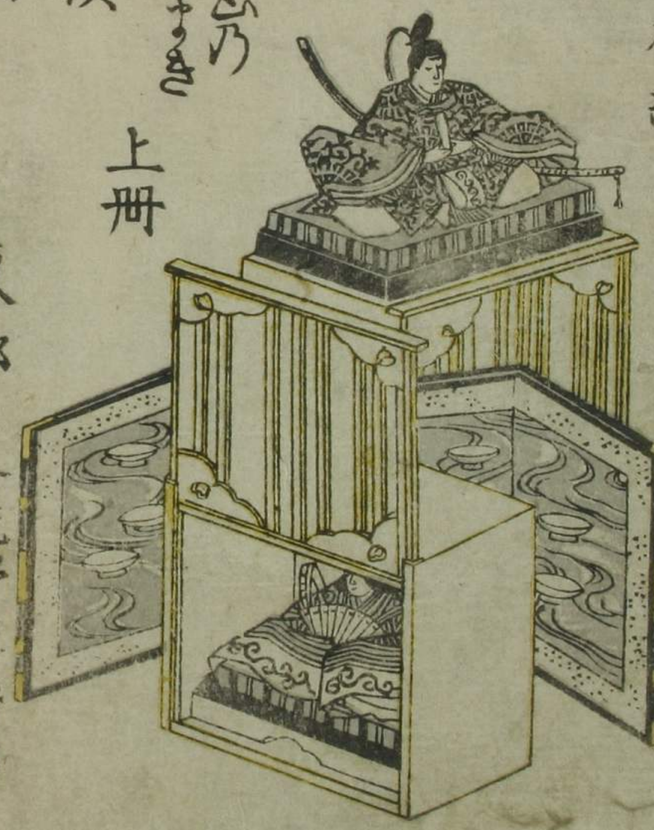
いろせのつきしゐのまき

上冊

仙果編次

國芳画圖

東都 芝佐野屋壽梓



入子枕初編

妹背假山之巻

それ此草紙序を省き代ふるに歌を以てす云

頃、此草紙序を省き代ふるに歌を以てす云

草瀬河中に隔て往見ぬかくれぬ深く恋心や渡らん

御溝水他所ゆそ流れ捐ぶ見ぬ雲井の庭の紅葉も

されば此世に様々に教ふ背に程を越え理に違ふ事

多けれど仏々禁止一六塵の楽欲皆厭離まろべ。

唯かの迷ひ一のみと徒秋草も記しくどく彼深相慕ふと男女の道

こと大吉の日の宴の末共崩芽蕾ちの物ふ凛ぎ一度其情動き

そもそも家訓も外聞も羞かしぬ怕ろ恐れ

紳集に討手の大将天降り又い地獄の閻魔王牛頭馬頭引率

責来や山川草木も敵とぞ成り芸才花の錦に錦梅ぶ真刃ふるとも

恋ふ通れい命と惜ぶ死と厭ねば苦ゆもせまられて住ば生えぬ仙人と

ぞ不老不死久方の月都ふ昔春きとも恒娥の習寂

見いみるさまこゝ下の巻を待ず十

二楼その茅一の合影一篇ことの

表ふさらるほとものと事旧たる

ことゝ成ぬ同屋の需らるゝがまゝ

笠亭仙果おろぐ誌

嘉永三年庚戌孟春

○禮記第三十坊記云男女授受不親

長右衛門が半石の部驛同宿圖

清水清玄懸戀櫻姫圖

○道德經不尚賢章第三云不見可欲使心不亂

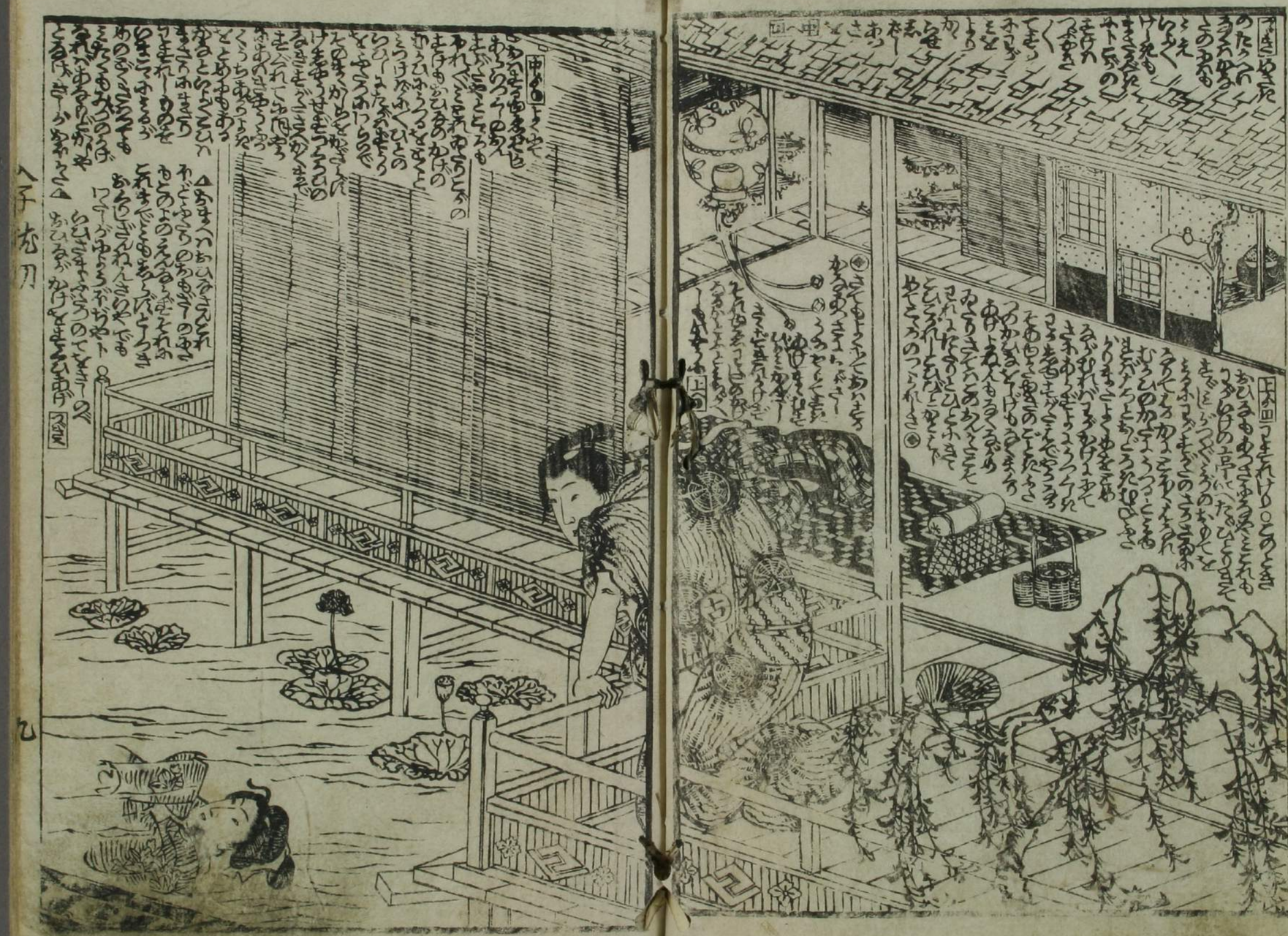
一馬一鞍有伯半子難招渡塔失口便傷倫不俟他年改配成對衆対此顔也難輕遂　右調如夢令

序

姫の夫吉長まで数々難義にあらくちけれ大和の久米の仙人も白脛とこそ落ち夏日の素ふあらざるや見さるのい煩悩の根本ゆかあらざるやされどこふ書記ニ一回ろりめ詰ハ家と嵩く治る人ハ男女を親しくさ毋ど隔置ハりとろりめ形殿いおろの景法師もこさきべくるぞとの曲とあるまぐ肝要らさづるふ類きくるき男女の淫情芽ふるる世草紙とハ必見違へたまふべくるを。

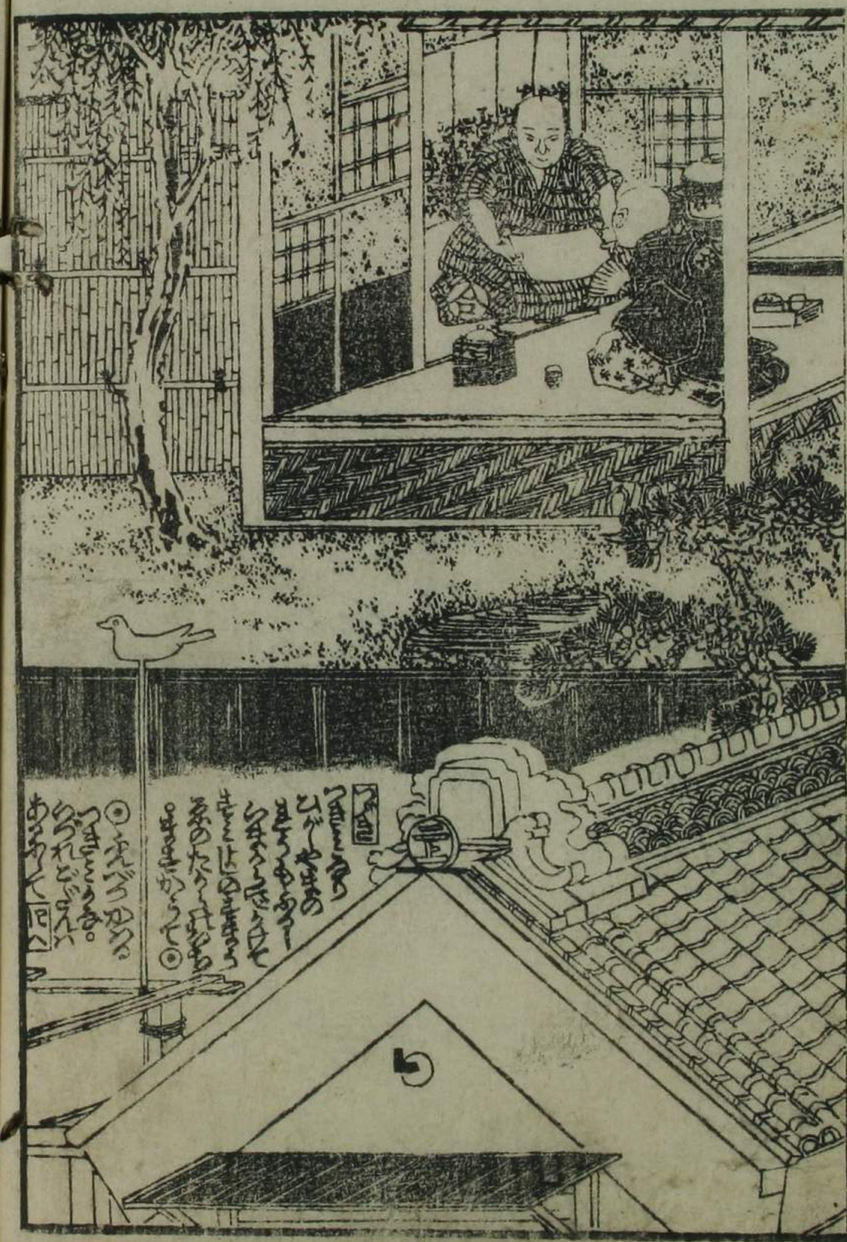
笠亭仙果記

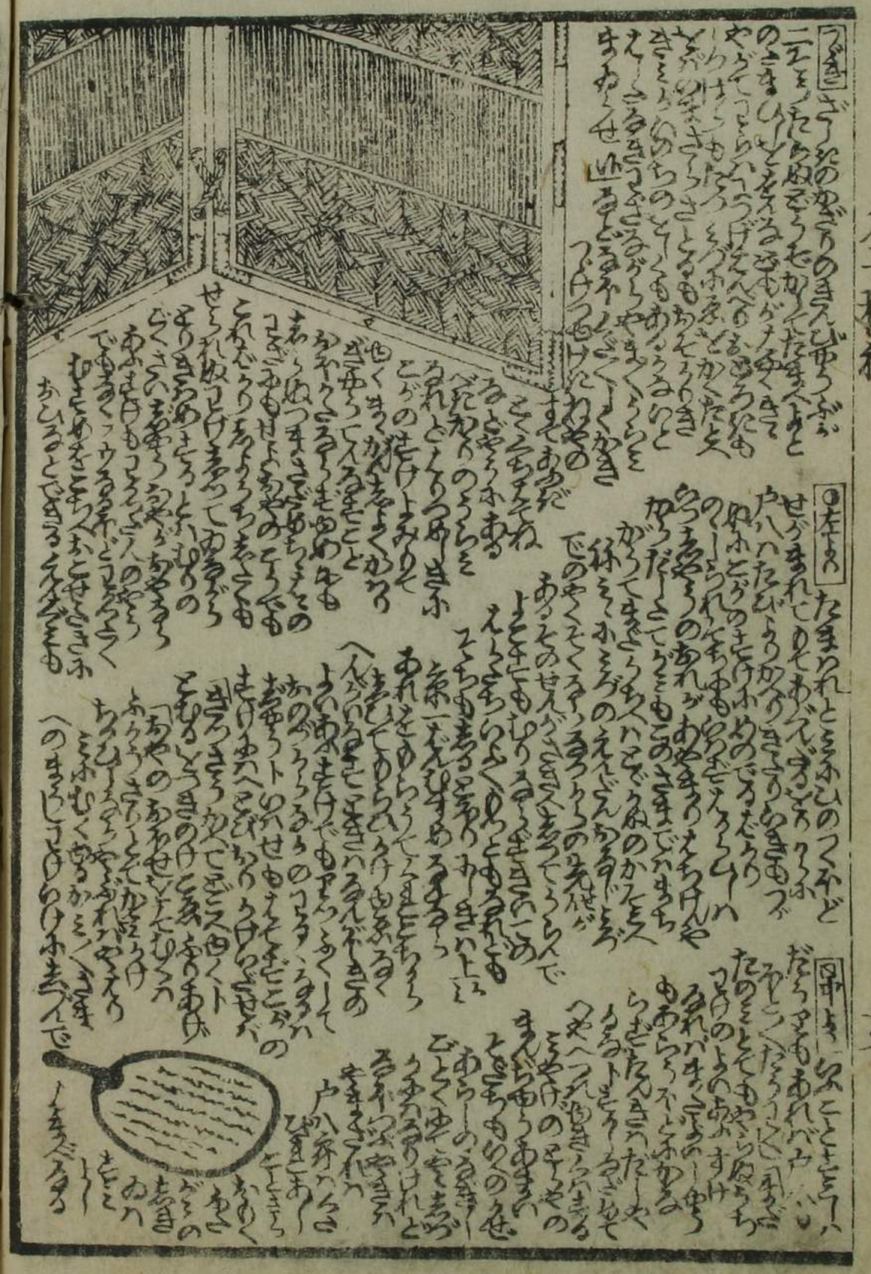
あるあるあるあ



大和屋
女房雑
紀国屋古雅之助

光得堂





入魂帳

嘉永四辛亥年孟春新鐫目録

根源實紫

こまつ八郎氏也後の作者紫或紫の一代記あり加賀屋婦人の日記ありしれぞみあるくるのつくりめざりかわいたるこまつハたきりのうしろうもかりてなるもまたいとふるくのあるへふるも殺みるもかりてなるもまたいとふるくかりてなるもまたいとふるくかりてなるもまたいとふるく

つぎ[illegible]

あの[illegible]

ぐんをよりえん

やりーも

おはるより

侍書 谷金川

嘉永四辛亥年孟春新鐫目録

根源實紫

笠亭 仙果作

三編四編

一勇齋國芳画

睡郷饗言 七ツ組子枕

山東庵京山作

一雄齋国輝画

浅間嶽面影草紙

初編二編

柳下亭種員作

一雄齋国輝画

総次郎琴聲美人錄

六編七編

一陽齋豊國画

破軍太郎七星奇談

初編二編

同 作

同 画

關太郎鈴鹿故語

初編 二編

西馬作

一雄齋国輝画

江戸團扇錦繪草紙

初店

芝神明前三島町角

佐野屋喜兵衛板